

朝倉市立比良松中学校のボランティアを終えて

健康スポーツ科学科 4 年

藤村 繰美

9 月 4 日、朝倉市立比良松中学校に伺いました。ニュースや新聞などの画面や紙を通して感じるものと、実際にその場を訪れて感じることは全く違い、豪雨から 2 ヶ月経った後でも被害の大きさや当時の状況を物語っていました。

学校に着き、最初に目に入ったのは体育館です。体育館の地盤に隣接する川が氾濫し削り取られており、体育館が傾いていました。他にも、技術教室は屋根が崩れ落ち、窓やドアが壊れており、中には入れず災害当時のままでした。学校外に出ると、近くの畑には土砂が入り込み農作物も散乱しておりその中にトラックや家の屋根なども流されていました。ニュースなどで見ていたものよりもはるかに想像を超え、このような状況で誰ひとり、怪我人や死人が出なかったことに驚きました。校長先生が出された判断は正しく、その場その場にあった対応やその先を見通した判断は明確なものでした。校長という立場は、生徒や保護者だけでなく、学校職員の命も預かり一つの言動でその命を左右する重要な立場だと改めて実感することが出来ました。

このボランティアを終えて教員という職業は、様々な場面に出くわし多くの命を預かる中で、正確で迅速な判断が取れなければならず、一人一人の児童生徒が災害などによる心的外傷後ストレス障害いわゆる PTSDにならないように努めるべきだと感じました。そして、今後多くの教育現場に実際に足を運び、その場で感じたことを言語化する力や現場の課題解決するための力を培っていきたいです。